

自由主義の射程

司会：中澤信彦（関西大学）

報告：森岡邦泰（大阪商業大学）

古谷豊（東北大学）

リプライ：荒井智行（東京福祉大学）

世話人：森岡邦泰（大阪商業大学）

テーマ：荒井智行『スコットランド経済学の再生』（昭和堂、2016年）合評会

〔森岡報告〕

本書の特徴は「スコットランドの福祉国家の形成」という線で、スチュアートを読もうとしていることである。その是非をめぐって、福祉国家論と深く関わっている第7章を中心に検討した。その際スチュアート自身の言葉と著者のコメントを峻別して、スチュアート自身の思想を拾ってみた。

著者の根拠は、①学校改革、②モニトリアル制度、③読書の効果、④文芸教育の重視、⑤徳の権威、であるが、①は基本的に欧米の初等教育の事例をスチュアートが紹介しているだけである。スチュアート自身の評価が見られるドイツの神学校と米国の教育案は、前者はスチュアート自身詳しく述べていないし、後者はどこが「非常に素晴らしい考え」と評したのか詳らかでない。

それに対してスチュアート自身の考えは、『講義』の「教育」の項目の副題が「犯罪の予防、矯正、更正」となっていること、「統治の安定が本質的に依存するのは、これらの下層階級の性格と習慣である」と明言していること、さらに「生まれつきの才能の発見およびその育成を目的にしているのではない。私は、社会上の道徳および良き秩序のための最良の安全として、初等教育という手段を拡大する重要性に私の注意を集中するだろう」と述べていることに表れている。つまりスチュアートは、治安対策として初等教育が有用だと見ているのであって、著者のような「動機づけ」は見られない。そもそも機会均等を目指す初等教育と、動機づけとは別の問題である。②は教育のコスト面の評価だけがいわれ、③も下層階級の「不節制と不品行」を防止するためといっているのが治安対策である。④は主にスチュアート自身の文芸への愛好が述べられており、⑤は教育によって徳が得られるとスチュアートが積極的に述べているわけではない。

以上から、スチュアートは下層階級の治安対策から教育を論じたのであって、福祉国家論につながるものはないといえよう。

〔古谷報告〕

荒井智行の『スコットランド経済学の再生』は、D.スチュアートの『政治経済学講義』の全体を俯瞰させてくれる、重要なモノグラフである。この本で荒井は従来像とは大き

く異なるスチュアート像を提示している。従来の、自由放任主義で進歩的・楽観的というスチュアート像は、改められるべきだ。スチュアートの本当の姿は、貧困救済政策と下層民の教育政策を重視する福祉国家論者なのだ。このように荒井は主張する。

私はしかし、荒井の提示するスチュアート像は左に偏っていて、実像から離れていると思う。従来のスチュアート像の方が実像に近いと思う。よって今回の報告では、荒井が自説の根拠としている議論へ、私の解釈を逐一对置させていった。

第一の論点は貧民論である。荒井は『講義』のなかで「貧困は解決すべき最重要課題とされて」(168) いると述べ、『講義』第三編の *the poor* についての議論を、貧民救済論であるとする。そして飢饉の時のために公共の穀物倉庫を設置する短期的救済政策と、読書や監獄システムの改善などの長期的政策との「両輪こそが、スチュアートの貧困対策の特徴をなしていた」(184) という。しかし、スチュアートの *the poor* についての議論は、本当に貧民「救済」論と規定されるものなのか。彼は公共の穀物倉庫の設置を、本当に主張したのか。私は違うと思う。

彼が公共の穀物倉庫の設置を主張した、という解釈の典拠として、荒井は『講義』から三カ所示している。Works IX、 125 (荒井 168-69) と Works IX、 47-49 (荒井 170)、Works IX、 91-93 (荒井 172) である。しかし私の解釈では、三カ所とも、典拠として不適切である。一カ所目も二カ所目も、そもそも公共の穀物倉庫の議論はしていない。三カ所目では、穀物の買い占め商人を批判する新聞記事が引用されている。荒井は、スチュアートが新聞記事に賛成して記事を引用したと解釈する。買い占め商人は批判されるべきで、公共の穀物倉庫は必要だ、と。

三カ所目についての私の解釈は、逆だ。スチュアートはこの新聞記事を、誤った意見として引用している。彼は市場での買い占め等は、供給過多の時に市場から穀物を持ち去って、供給不足の時に市場に穀物をもたらすという、有用な活動なのだと述べているのだ。彼は基本的に公共の穀物倉庫で貧民の救済を図るという主張は支持せず、市場機能にゆだねるべきであるとしていた。

第二の論点は下層民への教育の議論である。荒井はスチュアートの下層教育論を、ずいぶん下層民の人間性改善そのものを目的とするかのような描き方をしている。しかし私はこれも、第一の論点と同じで、スチュアートは福祉国家論者なのだ、という荒井の立場に引き寄せすぎた描き方だと思う。私はむしろ、スチュアートの下層民教育論は終始一貫して秩序維持・犯罪防止といった、統治側視点で書かれていて、そして結果として、下層民の知的向上という下層民にとってプラスのことは、秩序維持・犯罪防止にとってもプラスだと言っているのだ、と捉える。主従ははっきりしていて、下層民にとって何がいいだろうか、という方向性で結論を導いているのではない。

この解釈の違いを象徴するのが、文芸教育についての解釈である。荒井は、社会改革家・福祉国家論者としてのスチュアート像を打ち出す際に、公共の穀物倉庫設立政策とともに、下層民への文芸教育導入政策を挙げている。荒井はスチュアートの言う文芸教育の内容を、

詩・音楽・小説などであると解釈し、それを子供たちに教えて、人々の感情や想像力をはぐくみながら道徳的な改善を図るのだというように捉える。しかしこれは、『講義』の解釈としては、スチュアートが述べていることとは異なることを読み込んでしまってはいないか。『講義』では **literary education** は三回使われるが、いずれも、単に学校教育という意味で使われているに過ぎない。それを、文学・芸術作品を用いた情操教育と解釈し、そこから社会改革家・福祉国家論者スチュアートという結論を導き出すことは、困難であろう。

〔リプライ〕

森岡報告では、拙著の全体や特徴を丁寧に解説して頂いたうえ、拙著の核となるさまざまな論点についても御意見・御質問を賜った。さらに、スチュアートの『政治経済学講義』の原文も含めて、彼の教育思想を詳細に考察して頂いた。これらの検討により、小生が明示したリベラルなスチュアート像ではなく、保守的なスチュアート像を新たに提示して頂いた。

以下では、限られた文字数の許す範囲内で、森岡報告の御質問にお答えしたい。米国の教育案について「非常に素晴らしい考え」と述べられているのは、文脈上、米国の「ハンドレッド」の制度や多くの子供が初等教育を受けられる機会を指していると判断できる。モニトリアル制度については、賞罰システムによって動機づけが作用すると考えられている。また、読書の効果については、肉体労働の負担の軽減と労働時間の縮小 (Works IX, 346) とセットで論じられていることに注意を払う必要がある。長時間労働の縮小と読書の時間に充てられる余暇が増大すれば、多くの者は、気分をリフレッシュさせ、いっそうの勤労意欲を引き起こす、と読み取れる。「徳の権威」についての御質問だが、たしかに、スチュアートにとって、「徳の権威」は、人間の情念や感覚よりもア priori に人間本性に存在するものである。だが、彼は「徳の権威」を単純に賛美しているのではない。読書などを通じて得られた人々の思索行為が「徳の権威」に影響を与え、動機づけを鼓舞する点から、「徳の権威」を強調している (Works IX, 348)。

これらの点から、スチュアートは、治安対策のみから教育を論じたわけでないといえる。また、彼が『講義』第4編の中で論じた「動機づけ」の議論は、講義が行われる前に出版された『人間精神の哲学要綱』で論じられたリベラルな精神哲学を踏まえて論じられていることにも注意を払うべきであると考えられる。

古谷会員からは、特に穀物倉庫と貧民救済に関するスチュアートの議論について、『講義』の原文も含めて詳細に分析して頂いた。それにより、スチュアートを、福祉国家論者としてではなく、楽観的な自由貿易主義者として位置づけ、従来のホント説の見解を補強づけて頂いた。

しかし、御指摘頂いたスチュアートの穀物倉庫の議論は、独占批判対自由貿易という二項対立軸で論じられてはいない。安く買って高く売る独占商人による私的な穀物倉庫については決して許されないが、穀物不足の時に穀物倉庫を開放・市民に供給し、穀物の供給

量が多い時には穀物倉庫に貯める行為それ自体については、公共の穀物倉庫に限って見れば、有用だ、とスチュアートは主張している（Works IX, 95）。さらに、穀物倉庫の議論の後半部分で、彼は、ポーランドとプロシアの公共の穀物倉庫は大変良いと主張している（Works IX, 109）。以上の点から、スチュアートが公共の穀物倉庫を支持したことから、彼を楽観的な自由貿易主義者とはみなせないであろう。

スチュアートの経済思想の解釈を二分するほどの重要な御見解を明示された森岡会員と古谷会員には、心より深く感謝申し上げます。フロアからは、拙著について貴重な御意見・御質問を賜った 6 名の会員（質問順に、篠原久、安藤裕介、奥田敬、野原慎司、水田健、坂本達哉、敬称略）にお礼申し上げます。イタリアの穀物倉庫の議論についての奥田会員の御意見は、公共の穀物倉庫が 18 世紀の欧州全体を貫く正義のシンボルとしていかに考えるべきなのかを問う大変重要な問題提起であった。

なお、紙幅の都合上、森岡・古谷報告についてここで詳細に回答することができないため、小生のメールアドレス（tristan2000jp@yahoo.co.jp）に御連絡頂けましたら、私からのリプライ（ディスカッション・ペーパーに発行予定）を御送付致します。